

題名：横浜労災病院で子宮筋腫などの良性疾患に対してロボット支援下子宮全摘術あるいは腹腔鏡下子宮全摘術を受けた患者さんへ

当院では、下記の臨床研究を当院倫理委員会の審査を経て病院長の許可のもと行っています。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、あなたの診療情報や検査などで残った検体の下記の研究への利用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして研究に利用させていただきます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用するまたは提供されることを希望されない場合、また研究に関する質問等ございましたら、下記に記載している問合せ先へご連絡下さい。利用を希望されないことが今後の診療に何らかの影響を与えることは一切ありません。

研究課題名 (承認番号)	当科における良性疾患のロボット支援下子宮全摘術の成績 腹腔鏡下子宮全摘術との比較 (-)
当院の研究責任者 (所属)	石坂麻莉 (産婦人科)
他の研究機関および 各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	ロボット支援下子宮全摘術の適応拡大に伴い、従来の腹腔鏡下子宮全摘術と手術成績を比較し、手術の工夫や症例選択について検討する。
研究の方法 (利用する試料・情報)	2019年12月から2024年3月までに行ったロボット支援下子宮全摘術 RALH と、同時期に施行した腹腔鏡下子宮全摘術を比較する。対象は子宮筋腫、子宮腺筋症、子宮頸部異形成、子宮内膜増殖症を含めた良性疾患とする。ロボット支援下子宮全摘術は複数の術者により行うようになってきており2022年までの導入初期と2023年以後の後期の2群に分けた検討を行う。年齢、身長、体重、経産回数、術前採血、既往歴、合併症といった背景因子、手術時間、出血量、摘出子宮重量、周術期合併症といった手術に関するデータを診療録から後方視的に収集し、統計学的解析を行う。 研究実施期間：2024年5月～2025年12月
利用する試料・情報の 該当期間	2019年12月～2024年3月
試料・情報の他の 研究機関への提供 および提供方法	他の研究機関への提供なし
個人情報の取り扱い	利用する試料・情報から、氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報情報は削除いたします。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。

(利益相反)	
お問い合わせ先	電話：045-474-8111(代表) メールアドレス：kenkyu@yokohamah.johas.go.jp 担当者：石阪麻莉 (所属：産婦人科)
備考	